CHUBU UNIVERSITY

前画面へ戻る

科目名	言語学入門B
科目名(英訳)	Introduction to Linguistics B
科目ナンバー	HF132A02
詳細情報	授業外学修時間:週4時間
担当者 (非)は非常勤講師	田中 祐太
単位数	2
開講学年	1年
開講セメスター	秋期毎週
対象学科 選択・必修	必修: 選択:HF
他学科受講	
履修順序・履修情報	
担当者及び時間割	
カリキュラムの中での位置付け /DP(ディプロマ・ポリシー)	1年次の秋学期に開講される。言語学に関する基礎的な知識を学習し、2年次以降に開講される言語学関係の専門科目を受講するための基礎を築く科目である。言語学系の科目の学習の基礎をつくるものであるので、全員が履修することが望ましい。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ②:◎ ③:○
身につく基礎力 / 身につく汎用力	課題設定力 クリティカル思考力 / 専門的知識・技能 思考力 学び続ける能力

授業の主旨 (概要)	本講義では、日本語と英語の具体例を通して、言語学・英語学の下位領域について学び、各領域における問題設定の仕方やその解決策を学びながら、言語学・英語学に関する基礎的な知識や考え方を身につける。これに加えて、2つの言語に関する言語事実を論理的に考察・分析する力も身につける。
具体的 達成目標	この授業を通して、(1) 言語学・英語学の基本的な専門用語に関して具体例を用いながら説明する力と(2)日本語・英語の具体例を言語学・英語学の手法に基づいて、問題設定を行い、論理的に考察・分析する力を身につける。

1	【内容】	【第1週】意味論1: 意味論1 : 語の意味
	【授業外学習】	3つのタイプの反義語の例を考えてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
2	【内容】	【第2週】意味論2: 比喩
	【授業外学習】	3つのタイプの比喩の例を調べてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
3	【内容】	【第3週】意味論3: 主題役割
	【授業外学習】	提示された文の主題役割を考えてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
4	【内容】	【第4週】意味論4: アスペクト
	【授業外学習】	提示された各文のアスペクトを考えてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
5	【内容】	【第5週】語用論1: 発話の意味
	【授業外学習】	日常会話において、語用論的意味が生じる場面を考えてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。

授業計画	6	【内容】	【第6週】語用論2: グライスの公理
		【授業外学習】	グライスの公理が違反される場面を考えてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
	7	【内容】	【第7週】言語とジェンダー
		【授業外学習】	日英語の性差を含む表現とその代替表現を調べてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
	8	【内容】	【第8週】第1週から第7週までの講義内容の確認テスト
		【授業外学習】	第1週から第7週までの講義内容について復習する。
	9	【内容】	【第9週】音声学1: 調音器官と第一次基本母音
		【授業外学習】	調音器官の英語の名称を調べてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
	10	【内容】	【第10週】音声学2: 子音 (1)
		【授業外学習】	各子音を含む英単語を調べてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
	11	【内容】	【第11】音声学3: 子音 (2)
		【授業外学習】	各子音を含む英単語を調べてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
	12	【内容】	【第12週】音韻論1 : 音素
		【授業外学習】	英語の最小対立の例を調べてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
	13	【内容】	【第13週】音韻論2: アクセントとイントネーション
		【授業外学習】	提示された例のアクセントやイントネーションを調べてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
	14	【内容】	【第14週】オノマトペ
		【授業外学習】	英語のオノマトペの例を調べてくる。 キーワード等の重要事項を自分の言葉で説明できるように講義内容を復習する。
	15	【内容】	【第15週】第9週から第14週までの講義内容の確認テスト
		【授業外学習】	第9週から第14週までの講義内容について復習する。

授業方法	基本的には講義形式で行うが、課題を出したり、グループディスカッションを実施することもある。 小テストや授業内容の質問に関するフィードバックを授業内で行う。
成績の評価方法	主に以下の2点に関して、小テスト(20%)と確認テスト(80%)で問う。 (1) 具体例を用いて専門用語を説明できるか。 (2) 提示された日本語・英語の具体例を言語学・英語学の手法に基づいて、考察・分析することができるか。
成績の評価基準	小テスト(20%)と第8週と第15週の確認テスト(80%)の合計点が60%以上であれば合格とする。 ただし、特別な理由がなく欠席が4回以上ある場合は単位は出せない。
教科書	
参考文献	
備考	
関連ホームページ	
メールアドレス	田中 祐太 sfw1913@fsc.chubu.ac.jp
オフィスアワー	